

第5期夢育で・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育で・たちかわ子ども21プラン推進会議(第6回)
日時	令和6年6月14日(金)18時30分～20時30分
出席	金子恵、中嶋弥生、小畑くるみ、千頭和正巳、永田ゆかり、樋口睦子、土方崇、平野静香、米原立将、景山千鶴子、小松佳世子、佐藤米子、水城優子、山中ゆう子、伊東祐也、安部希美、大口泰朗、坂下香澄、鉤賢太郎、飯野心咲、末平乙綺、松村咲（委員名簿記載順・敬称略） [事務局]矢ノロ子ども家庭部長、平川子育て推進課長、守屋子ども家庭支援センター長、小川子ども育成課長、加藤保育課長、江頭保育振興担当課長、鈴木健康推進課長、井田子育て推進係長、高野 [株式会社地域計画連合]柳坪、相羽、青野
欠席	大橋暉弘、神田恭司、秋山俊、北島宏晃、佐藤蓮太郎（委員名簿記載順・敬称略）
配布資料	(1) 第5期夢育で・たちかわ子ども21プラン推進会議(第6回) 次第 (2) 第5回推進会議 委員からの意見 (3) 第4次夢育で・たちかわ子ども21プラン 成果指標・主な取組指標実績 (4) 自治体子ども計画策定のためのガイドライン (5) 子ども・若者の声を聴く取組ポイント
会議場所	立川市役所 302 会議室

(開催に先立ち、事務局より出席した関係管理職の紹介)

1. 第5回での推進会議での市民意向調査に関する意見について

(1) 事務局より、第5回の会議で委員から出された市民意向調査に関する意見や質問について、資料1にまとめて提示し、関係各課へ確認した内容を説明。

(2) 追加説明

【病児保育施設の現状について】

・病児保育施設では、0歳児や発達に課題のあるお子さんについては、1対1で対応できるように預かっている。また、感染症疾患の病児の場合、疾患ごとに部屋を区切り、感染症をお互いにやり取りしないように分けて預かる必要がある。このため、必ずしも定員通りに保育士を配置できるわけではない。

【保育園入園について】

・子どもとできるだけ一緒にいたいけれども、保育園の入りやすさを考えると、0歳から入園せざるを得ないという意見について、まさに課題と考えている。市では育休明け入園予約制度を設けており、安心して育休をとっていただくために復帰後の入園を確約する形にし、例年十数名程度ご利用いただいている。きょうだいがいる場合やお子さんがたくさんいる場合は、優先順位付けを行っている。

・地域格差については、地域によって入園希望の多い園がある一方、空きがある保育園もあり、利用定員変更や弾力的な受け入れ、保育施設の新設等も含め、受入枠の適正配置に取り組んでいきたいと考えている。

(3) 委員からの主な質問、意見は以下のとおり。

・Q 情緒固定級は中学校にはないのか。小学校で情緒固定級に在席していた生徒は、中学生にな

るとどのような形で通学するのか。

- ・A 中学校にも、特別支援教室という形で、配慮が必要な生徒が指導・支援を受けられる仕組みを持っている。ただ小学校の固定級とは異なり、1週間に2時間あるかないかというのが現状。小学校では情緒固定級に毎日通い合理的配慮のある特別支援教育を受けることができていたが、中学校では普通級に入らざるを得ず、難しい状況があることは認識している。
- ・Q スタディークーポンは生活保護世帯が対象なのか。
- ・A 生活保護世帯が対象と聞いている。生活福祉課にも確認する。

2. 第4次プランの振り返りについて

(1) 事務局より、第4次プランの7つの施策目標について、資料2-1から資料2-7の成果指標及び主な取組指標の実績を振り返りながら、次期プラン策定に向けた意見をいただきたい旨を説明。

(2) 委員からの主な質問、意見は以下のとおり。

【施策目標1 子どもの権利を尊重します】について

- ・自分のことが好きだと思えると回答した児童・生徒の割合が、少しずつ上がってきている。
- ・子どもの権利が世の中に定着してきて、20年前と比べ「権利」の捉え方が変わってきている実感がある。
- ・道徳授業地区公開講座は、コロナで参加者数が大幅に減少し、コロナ前の数値になかなか戻っていない。コロナ後も、学校行事の制約が全てなくなったわけではなく、徐々に緩和しているところなので、数値は今後回復するのではないか。
- ・チャイルドラインは持続可能な取組として、受け手の養成講座や支え手の会議等を行いモチベーションや技術アップを図っている。また、チャットでの相談等も開始できるよう場所や機材について、現在、市にも支援をお願いしている。
- ・子どもの権利が尊重されていると思う児童・生徒数の割合と、自分のことが好きだと思う児童・生徒の割合が前回調査に比べると大幅に高くなっている。道徳授業地区公開講座や朝の校長先生のお話、担任の先生のお話など、学校で学ぶ機会が増えたという体感がある。また、自己肯定感につながっているかはわからないが、悩みごとがあると先生たちが察してくれて話を聞いてくれたり気配りをしてくれたり、配慮が大きい。それで、大切にされているという実感が出てきたのではないか。

【施策目標2 ひとりひとりに応じた<子育て>を支援します】について

- ・放課後子ども教室は、かなり形が変わってきた。これまでは地域の方々が担い手となって取り組んでいたが、令和4年度から順次「くるプレ」が導入され、事業者が放課後子ども教室を実施する形になってきている。令和8年度までには、全校に「くるプレ」が導入される。
- ・青少年が健全であると感じている市民の割合という項目の必然性について、若干疑問がある。健全な青少年像というものは大人が作り上げてしまうものであり、今後もこれを問い続ける必要があるのかどうか疑問。
- ・子ども会の加入率は自治会の加入率と関係しているため、子ども会の加入率だけを取り出すのは項目としてどうなのか。

【施策目標3 ひとりひとりに応じた学びを支援します】について

- ・部活動に参加した生徒の人数だけでは確認できないが、部活動も変化している流れの中で、今後

どのようにやっていくのか、どんな部活動がやりたいのかという視点も、プランの中に必要。

- ・少人数指導員配置時間数は、仕組みが変わったからか、令和3年度から下がっているのが気になる。
- ・1人1台タブレット導入になったので、今後は質のところが必要。ひとりひとりに応じた学びの支援になるように活用ができてきているのか、子どもたちのためになっているのかを議論し、次の目標にできるとよい。

【施策目標4 ひとつひとつの家庭に応じた＜子育て＞を支援します】について

- ・コロナをきっかけにファミサポやひろばの利用件数、子育てサークルの登録者数が減っており、コロナが明けても戻っていない。コロナ禍で妊娠・出産し子育てを始めた方が、どうしても人とつながりにくく、子育てを共有することが難しくなっている。市民意向調査の自由意見でも子育ての苦労を周囲に理解してほしいという意見が多かった。成果指標の「子育てを楽しんでいると感じることが多い保護者（未就学児）の割合」の結果も、4割の方は子育てを楽しんでいると思えないということで、産後の子育てに関する共有し合える場が必要だと感じる。次期プランにも反映していきたい。
- ・Q 乳幼児健康診査事業受診率のところで、未受診だった方への具体的なアプローチの方法は。
- ・A 未受診者には地区担当保健師が電話、ダイレクト訪問、手紙のポスティングを行っている。受診できない課題を抱えている場合もあり、関係が途切れないようゆっくり伴走をさせていただければという姿勢で、地区担当の保健師が寄り添うようにしている。
- ・Q 新規子育てサークル登録者数の項目で感じたことだが、登録すると活動する時に助成があることは知っているが、サークルを作って登録する人より、サークルがあったら入りたい人の方が多いと思う。登録する人の数が指標となると人数は減っているが、サークルがあれば参加したいという人は多いと思う。サークル活動へのつながりというところをサポートする方がよいのではないか。
- ・A 現在学習館の保育室が無料で使えるようになっていて、幼稚園のイベントで企画をするという時に、気の合う保護者同士が集まる場面でよく利用されている。このようなつながりの輪が広がっていく仕組みがあれば、と思っている。コロナがかなり影響しているため、新規登録者数は少なくなっているが、これからまた持ち直せることができれば、と考えている。
- ・今、いれたちメンバーの有志の1人として様々なイベントを企画している。他のメンバーからも、ママたち、パパたちに向け、もっと子育てをシェアしていこうという企画が出ている。ファミサポを知ってもらい、自分たちの子育てをもっと楽しく乗り越える選択肢を増やしていこう、それを届けていこう、という企画もある。オンラインで定期的に子育てをシェアできるようにする、悩みを相談し合える環境を作っていくなど、どんどん企画が出てきている。今後はサークルなど対面だけでなく、オンライン・SNSを活用し、行政や市民と手を組んで取り組んでいけたらと思っている。
- ・社会福祉協議会では、サークルを地域で立ち上げるところの支援をしている。子育て中の方から居場所がなくて困っているという相談をよく受けるので、色々な情報をキャッチしてご案内等するようにしている。相談があれば案内できるのだが、知らないままの方も多く、そこは課題として捉えている。各機関と連携しつつ情報を伝えていきたい。

【施策目標5 子育てと仕事の両立を支援します】について

- ・学童保育所の量と質の確保というところで、成果指標では待機児童数が高止まりとなっている。どこの学童も定員が多く、建物が狭い。需要もあるが、質の担保もできているのかが気になる。
- ・学童保育所は、学校以外の特別な時間を過ごす場所だと思う。4年生以降は学習塾や習いごとが忙しくなっていくが、1年生から3年生ぐらいまでは学校が終わってから自由に楽しめる特別な時

間があり、その時間に好きなことをとことんやることができると、かなり力がつく。非認知能力をつけていくのに一番大事な時間である。学童保育所に入れたから良いではなく、自分の子どもに合った学童なのか、特別な時間を大切にできる学童なのかを確認し、選べるようになるとうい。そういうところも次期プランに盛り込んでいきたい。

【施策目標6 配慮を必要とする子どもや家庭を支援します】について

- ・Q サポートファイルの利用件数は、目標の設定も含めどのように評価しているのか。
- ・A 現状A4サイズの紙のファイルで、持ち運びにくく、今の時代に合っていない。スマートフォン対応にするなど、気軽に操作や記録ができるようアップデートする必要があると評価している。
- ・就学支援シート提出件数が減っているが、特別な支援が必要な方が減っているのか、それとも他のサポートを行っているのかが気になる。
- ・サポートファイルは、早いうちに存在を知っていれば少しずつ記入できるが、年中・年長になってからそれまでの状況を思い出して記入するのは、大変だという印象がある。就学支援シートについても、出せば配慮してくれるかもしれないくらいの情報で、出しても出さなくても良いものと思っている人が多い。教育支援課へ提出するためには、幼稚園・保育園の先生などに記入してもらう必要があり、親が全てを把握し記入を頼みに行き、提出まで親が行う形になっていて、それに対してのサポートがあまりない。負担が大きいと、親自身が必要性を理解し提出するという気持ちを持たないと、大変だと思う。
- ・普段、園ではこのような配慮をしていて、学校でも同じように配慮をしてもらえとお子さんも困らずに過ごせるので提出しませんか、とお話ししている。環境が変わってもできる限り安心して過ごせるために、就学支援シートで学校にもお知らせしませんかという形で案内している。
- ・就学支援シートを、なかなか出したがらない親も多く、提出してほしい方が就学支援シートを希望しない場合もあり、ご理解、納得をしていただくまでに時間がかかる。

【施策目標7 地域のあらゆる構成員が連携・協力して事業を推進します】について

- ・協働について記載されている大事な部分だと思う。地域でやっていた放課後子ども教室も、毎日実施するために事業者に移ったり、PTAが無くなったりという話もあるが、市民が参加することと一緒に作っていくことの重要性について、次期プランにも盛り込んでいきたい。
- ・協働で事業を進めていくというところは、立川市の大きな特徴。ここに新たな項目が入ってくるかもしれない。

【指標について】

- ・今回の実績は、割合で示されているものも実数で示されているものもある。第4次プランは推計人口があまり変わらない前提だったので良いが、今後子どもの数が減っていくのであれば、実数だけでは見えにくくなってしまふことがあるため、どうやって見ていくのかも確認しながら進めていく必要がある。丁寧に様々な意見を出したり、意識を共有したりしながら進めることが今後大事になる。

3.その他

- ・チャイルドラインたちかわ2023の活動報告を机上に配布した。
6月9日の20周年記念のイベントは無事に終了し、講演会も盛況だった。引き続き子どもの声をしっかりと聞いていこうと、思いを新たにした。
- ・自治体こども計画策定のためのガイドラインの紹介

- ・こども・若者の声を聞く取り組みポイントの紹介
- ・こどもとおとなのはなしあいin市議会議場の聞き手の募集
- ・次回、推進会議 7月16日を予定。

以上